

◆技術改良試験（重点普及課題）

オキナワモズク養生環境調査（本島地区）

水産業改良普及センター 與那嶺盛次

1. 目的

モズク養殖の種付けは、ビニールハウス内で行う者（水温の管理が出来るが照度が露天に比べ低い）、露天で行う者（照度は十分あるが水温管理が出来ない）がいるが、どれがよいのかははっきりしていないため、水温計・照度計を設置し最適環境を調べ普及する。

2. 材料及び方法

調査は、伊平屋村漁協モズク生産部会と合同で行った。平成22年2月13日、ビニールで覆った水槽（ハウス区）と露天水槽（露天区）で第1回種付け比較試験を実施した（図1）。使用する培養種のサンプリングを3回行い、乾燥重量を水産海洋研究センターで測定した。培養種の使用量は、両区とも70 / tとした。各試験区の水槽に水温・照度計を設置し、水温と照度を計測した。

種付け期間中3回、各試験区の確認板に付いた盤状体（倍率200倍）の数・大きさを測定した。2月22日、各試験区で種付けした網各10枚を育苗に移した。

第2回試験は、平成21年2月23日から母藻による種付け試験もあわせて開始し第1回目と同様に測定後、3月6日、各試験区で種付けした網各10枚を育苗に移した。

3. 結果及び考察

第1回試験に使用した培養種の乾燥重量は0.097mg/mlで、第2回試験の乾燥重量は

0.351mg/mlであった。第1回試験に使用した培養種の密度は低かったと思われる。。

確認板に付いた盤状体の数は、2回の試験ともハウス区が露天区より多かった（図2、図3）。盤状体の大きさは、2回の試験ともハウス区が露天区より大きかった（図2、図3）。図4と図7の示すとおりハウス区より露天区の水温が低かった。

母藻によるハウスと露天での種付け試験では、確認板に付いた盤状体の数が少なくあまり差がなかった（図8）。盤状体の大きさもあまり差がなかった（図9）。図10の示すとおりハウス区より露天区の水温が低かった。

第1回及び第2回試験とも育苗時に芽出しがほとんどみられず本張りに移すことができなかった。

4. 考察

ハウス区と露天区での培養種による種付けでは、確認板に付いた盤状体の数は露天区よりもハウス区が多かった。また、盤状体の大きさも露天区よりもハウス区が大きかった。これは、ハウス区の水温が露天区よりも高かったからであると思われる。昨年度も同様な傾向がみられた。低水温期でのハウスの使用が有効と考えられる。

母藻によるハウスと露天での種付け試験では、1月から天気が悪く日照不足のため良好な母藻が得られなかった。そのため、明確な結果が得られなかったと思われる。



図1 養生環境調査





